

# にしむろアグリ情報



## ■持続的なウメ産地の発展〔重点プロジェクト〕

西牟婁地域の基幹作物であるウメは、冬期の気象条件により生産量や価格が不安定になりやすい現状にあります。また、生産者の減少や高齢化が進んでおり、「新規就農者の確保」や「作業負担の軽減」が急務となっています。

農業水産振興課では‘南高’の収量と作業性を高めるため、JAと連携し「新梢の摘心処理」と「カットバック処理」を組み合わせた実証ほを田辺市秋津川と上富田町岡に設置するとともに、各地域で摘心処理等の講習会を実施しています。

さらに、受粉樹の導入推進として、うめ研究所で育成された自家和合性品種‘星秀’の高接ぎ展示ほを設置し、開花状況の確認を行っています。

また、各市町と連携し、就農希望者が先進農家で研修を受け、地域への定着につなげる仕組みづくりを推進しています。

これらの取組を着実に地域に広められるよう、今後も関係機関と連携しながら、現地での活動を進めていきます。



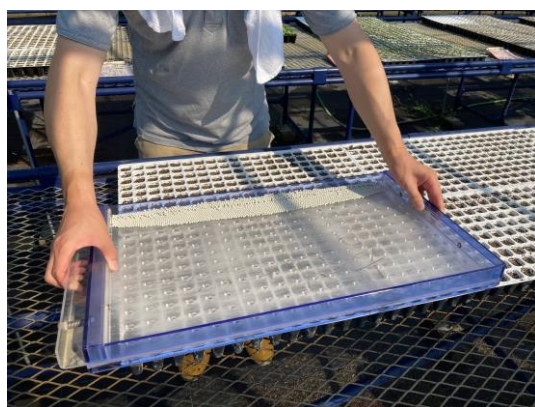
実証ほでの講習会（上富田町岡）

## ■水田を活用した施設・露地野菜花きの振興

西牟婁地域の野菜花き栽培は、販売価格の不安定化や生産者の高齢化等により減少しており、高品質安定生産、省力化技術の導入が必要となっています。

農業水産振興課では、関係機関と連携し、イチゴの施設栽培における環境制御等のスマート農業技術導入やストックにおけるセルトレイ育苗等の省力化技術導入を推進しています。

また、就農希望者を受け入れる体制整備に向けた支援やモデル指標の作成を行い、生産者確保と経営の安定化を図っています。



ストックのセルトレイ育苗

## ■SUN・燦紀南農業者の集いを開催しました

本集いは、西牟婁地方の農業者が、組織・年齢・生産部門などを越えて、地域農業の発展に向けた取組につなげることを目的として、農業士会・生活研究グループ・4Hクラブで構成する実行委員会が開催しています。今年度は「アイデアと元気な身体で農業振興」をテーマとして、9月7日に紀南文化会館で実施し、約70名が出席しました。

株式会社はりまぜデザイン代表取締役角田誠氏から「農業から農商へ～農業デザイン思考で売る!」、株式会社フィットスタイル黒沼多珠氏から「簡単ストレッチで身体も心もリフレッシュ」と題した講演がありました。

角田氏から、直売所などで農産物に貼るシールは、買う人目線で「知りたいことが分かる」、「良いと思ってもらう」デザインが重要として、具体例を交えた説明や希望者への個別アドバイスがありました。

また、黒沼氏から、身体の負荷が少なく、椅子さえあればできる簡単ストレッチの紹介があり、参加者全員で楽しく身体を動かしました。



角田氏のデザインに関する講演



黒沼氏の健康に関する講演

## ■イタドリとジビエの料理講習会を開催しました

西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会（森川敏子会長）は、例年開催している「リーダー研修会」と県主催の「都市農村交流セミナー」をタイアップし、会員24名のほか一般消費者15名の参加により「イタドリとジビエの料理講習会」を実施しました。

まず、当協議会が3月に作成した「イタドリ料理レシピ」に掲載している8品を会員が紹介しました。

続いて、ベーカリーレストランKOKAGE（田辺市）のオーナーシェフ 林拓郎氏による提案レシピ、「イタドリと鹿もも肉とキノコの和風パスタ」と「イタドリと鹿ミンチのスパニッシュオムレツ」の実習を行い、和気あいあいと調理を楽しみ交流しました。

最後に、イタドリ料理10品を皆で試食し、意見交換を行いました。参加者からは、「イタドリのレシピをたくさん知ることができてよかった」、「また家でも作ってみたい」などの声が聞かれました。



林シェフによるイタドリ料理の実演

## ■クビアカツヤカミキリの早期発見に向けた取組

県北部のウメをはじめとするバラ科植物において、特定外来生物のクビアカツヤカミキリによる被害が拡大しており、5月には県中部でも被害が確認されたことから、警戒を強めています。本虫は繁殖能力が非常に高く、一度侵入すると全てを駆除することは難しいことから早期発見、早期対策が重要です。

農業水産振興課では、関係機関と連携してチラシの配布や広報誌の掲載による啓発活動の他、ウメ、スモモ、サクラの定点における発生状況調査を実施しており、今年度は11月末時点で、延べ4,032本を調査した結果、被害は確認されませんでした。紀南地域には今のところ侵入していないと思われませんが、疑わしい成虫やフラス（木くずと幼虫の糞の混合物）を発見した場合は、当課又はJAにご連絡ください。



成虫（体長 40mm 程度）



幼虫の食入により出たフラス

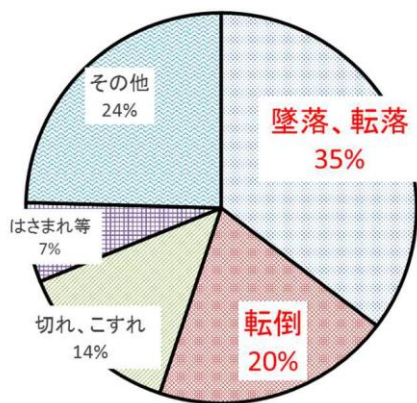


発生状況調査

## ■農作業中の事故にご注意ください

県内の農作業事故の過半数は、脚立・樹木などからの墜落・転落や作業中の転倒となっており、うめとみかんの収穫期である6月、11月～12月が特に多い状況です。疲れの溜まりやすい農繁期は、少しの焦りや油断が事故につながることから、脚立やはしごの足場の安定性、変形の有無、留め具の使用等の確認をお願いします。

日頃から農業機械の点検整備や体調管理に気を配り農作業安全について、積極的に取り組んでいただきますよう、よろしくをお願いします。



令和 2～4 年 農作業事故割合



啓発用ステッカー

## ◎受賞者の紹介

### 令和5年度和歌山県農林水産業賞

#### ■志波 元昭氏（田辺市上秋津）

マルチ栽培や後期重点摘果、せん定技術を駆使し、温州みかんの高品質安定生産を実践しています。また、令和3年度より次世代につなぐ卓越した農業技術を有する「匠の技伝道師」として技術の伝承に尽力するほか、紀州田辺新規就農者育成協議会の役員として後継者の育成、確保に取り組むなど、地域農業の振興に貢献されました。



## ミツバチを飼育する皆様へお知らせ

セイヨウミツバチ、ニホンミツバチを飼育する方は届出が必要です

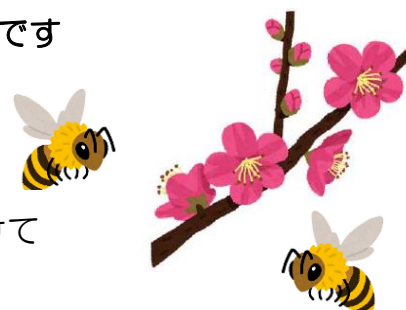
対象：ミツバチを飼育する方（趣味での飼育も含む）

ミツバチを飼育するため、巣箱を設置した方

提出期限：毎年1月末まで

\*すでに飼育しており届出を出していない方も随時受け付けています。

問い合わせ先：西牟婁振興局 農業水産振興課 TEL：0739-22-1443



## ニホンミツバチでアカリングダニ症の発生が急増中です

①アカリングダニ症はミツバチの気管にダニが寄生し、ミツバチを死に至らしめる病気です。

飛び立てず地面を這う蜂がいる場合は、アカリングダニ症の可能性があります。これらの症状を確認した場合は、速やかに家畜保健衛生所までご連絡ください。

\*アカリングダニはミツバチ以外（人、動物）には寄生しません。

②調査協力をお願い

ニホンミツバチを飼育する方で、ミツバチ（20匹程度）を提供していただける方は、紀南家畜保健衛生所（TEL：0739-47-0974）までご連絡ください。

西牟婁振興局 農林水産振興部 農業水産振興課

〒646-8580 和歌山県田辺市朝日ヶ丘23-1

TEL：0739-26-7941（栽培技術・経営相談、新規就農支援、食育推進など）

TEL：0739-22-1443（補助事業、鳥獣害対策・狩猟、農地貸借、農家民泊、養蜂など）

FAX：0739-26-7945

URL：<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130600/130651/index/index.html>